

活動状況報告書

1 事業名称 空き家利活用等相談事業

2 実施主体

- 団体名： 特定非営利活動法人空き家安全管理ネットワーク
- 事業担当課： 住宅政策課 空家活用推進室

3 事業を実施する上での役割分担

- 団体の役割
 - ・ 空き家問題・対策の講演会での講演
- 担当課の役割
 - ・ 講演会の案内・会場準備

4 事業の内容

I、第1回講演会「考えよう！空き家問題と活用方法」の実施

対象者：空き家による悪影響を受ける周辺住民、空き家問題に関心のある方

日 付	作 業 内 容
4月11日	講演会の基本コンセプト打合せ
4月18日	担当課との打ち合わせ
5月19日	講演内容に関する資料についての検討
5月31日	担当課との打ち合わせ
6月10日	講演会内容検討・役割分担・準備作業の決定
6月13日	担当課との打ち合わせ 講演会打ち合わせ
7月5日	講演会配布資料印刷
7月9日	第1回講演会（考えよう！空き家問題と活用方法）実施 常盤平市民センター/講師：特定非営利活動法人空き家安全管理ネットワーク 新井・馬場/参加者70名
7月29日	第1回講演会についての担当課とのレビュー
8月1日	次回に向けた空き家情報収集について打合せ

II、第2回講演会「空き家活用のための講演会・個別相談会」の実施

対象者：空き家所有者、空き家問題に関心のある方

日 付	作 業 内 容
10月14日	講演会に向けた空き家活用事例検討会
10月21日	担当課との打ち合わせ 講演会打ち合わせ
10月27日	講演会内容検討・アンケート確認・次回講演地区等の検討
11月4日	講演地区調査
11月15日	利活用を妨げる要因検討

11月～12月	担当課と数回メールで打ち合わせ
12月9日	講演会内容検討（利活用への条件等）
1月25日	担当課との打ち合わせ
2月1日～	講演内容に関する資料についての検討、及び資料作成
2月23日	講演会配布資料及び個別相談申込書印刷
2月25日	第2回講演会（空き家活用方法）の実施 松戸市民会館/講師：特定非営利活動法人空き家安全管理ネットワーク 新井/参加者 42名
同上	空き家に関する個別相談会の実施（上記講演会に引き続き） 弁護士1名含む相談員4名で20件（事前申込19件＋当日申込1件）の相談に対応
2月28日	協働事業のまとめ①
3月6,9,16日	個別相談者へのフォロー（追加相談）
3月13日	協働事業のまとめ②
3月16日	担当課との講演会レビュー
3月17日	協働事業のまとめ③
3月26日	協働事業に関する報告書作成・提出

5 事業成果について

(1) 事業目的の達成について

空き家問題への関係者の認識を高めることと、空き家の利活用推進への寄与を目指し、①セミナー開催3回以上、及び参加者合計300人以上、②個別相談60件以上、③利活用提案20件以上を目標として取り組み、以下の結果となりました。

1) 開催回数及び参加者：開催2回、計112人（1回目70人、2回目42人）

開催回数については、一時は4回開催を計画しましたが市側の事情もあり2回の開催に留まりました。また、参加者については、開催回数が減ったことに加え、2回目のセミナーでは、人数より所有者の勧誘に力点を置いたことも影響した結果になりました。

2) 相談件数：25件（電話依頼5件、第2回講演会での依頼20件）。

1回目のセミナー開催後に、主に市を通じた電話での相談依頼が5件あっただけでしたが、2回目のセミナーでは空き家所有者への勧誘が功を奏し20件の相談申込がありました。相談内容は売却又は賃貸に関する相談が20件、借りたい2件、その他3件でした。相談全般に共通するのが、『市が行う相談会だから』がありました。その点で協働事業という形が非常に効果的であったと判断しています。

3) 提案件数：2/25までの4件＋第2回セミナーでの個別相談20件、計24件
個別相談の20件については、相談者の意向を確認して現地確認の上での追加
相談を進めて行き、定期的に担当課に進捗状況の報告をします。

(2) 取り組んだ課題の現状について

1. 解決できたこと

- ①空き家の問題点についての啓発活動ができました。
- ②第2回セミナーでの個別相談会の成果として、空き家所有者と直接話が
でき、一部ではありますが所有者の意向を確認できました。何よりの成果とし
ては、10数件の所有者に対し、活用に向けて今後も提案を行う関係が作れま
した。

2. 解決できなかったこと

- ①28年度中に空き家の解体契約が1件締結されましたが、他の相談者への提
案実現は29年度に持ち越すこととなった。
- ②今回の協働事業によるセミナーに参加された方を除く、多くの空き家所有
者への啓発活動としては十分に実施できなかった。

6 今後の事業展開

第2回セミナーで実施した個別相談会において、20件の相談を受けました。

1件は空き家を借りてコミュニティーカフェを運営したいケースで、残り19
件は売却・賃貸などの活用希望で、相談会後にそれぞれの方々の了解を得な
がら、現物確認、追加相談への道筋をつけるべく連絡をしています。

団体側の事情で29年度協働事業への申請はしておりませんが、それぞれの所
有者の事情を踏まえた具体的な空き家利活用の提案を実施していきます。28年
度内に結論を得られる案件は限られると思いますが、定期的に担当課に状況報
告を継続しながら提案実現につなげて行きます。

協働事業終了後の来年度以降も、可能な範囲で担当課との連携を維持しつづ
引き続き、空き家問題への啓発と、空き家活用推進に取り組んでいきたいと思
います。

収支決算書

【労力換算(限度額算入)】

(単位:円)

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額(A)	¥ 162,000	¥ 203,500	¥ ▲41,500	※別紙 労力換算計算書 参照

【収入】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	NPO拠出金	¥ 163,000	¥ 45,928	¥ 117,072	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額(B)	¥ 163,000	¥ 45,928	¥ 117,072	
市	協働事業負担金(C)	¥ 320,000	¥ 82,692	¥ 237,308	←精算額
合計額(D)=(B+C)		¥ 483,000	¥ 128,620	¥ 354,380	

【支出】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	使用料	¥ 15,000	¥ 0	¥ 15,000	セミナー&相談会 会場使用料 0円×2回
	賃借料	¥ 15,000	¥ 0	¥ 15,000	音響機器使用料 0円×2回
	印刷製本費	¥ 360,000	¥ 89,380	¥ 270,620	セミナー配布資料(2回) 60,287円+29,093円
	印刷製本費	¥ 15,000	¥ 2,500	¥ 12,500	チラシ・ポスター 25円×100枚
	報償費	¥ 45,000	¥ 0	¥ 45,000	外部相談員日当 5000円×0名
	通信費	¥ 15,000	¥ 0	¥ 15,000	案内状郵送料
				¥ 0	
	対象経費の合計(E)	¥ 465,000	¥ 91,880	¥ 373,120	
(その他経費)	交通費	¥ 18,000	¥ 36,740	¥ 0	2回の講演会に関する交通費 16,380円+20,360円
	その他経費の合計額(F)	¥ 18,000	¥ 36,740	¥ ▲18,740	
合計額(G)=(E+F)		¥ 483,000	¥ 128,620	¥ 354,380	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金(C)が、対象となる経費(E)欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金(C)が、自己資金(B)欄に労力換算額(A)欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 237,308
-----	-----------

団体名 特定非営利活動法人 空き家安全管理ネットワーク

代表者氏名 理事長 新井 孝

収支内訳書

【事業費の収入額】

区分	科目	金額	内訳	摘要
団体	NPO拠出金	¥ 45,928		事業費の一部を拠出
	自己資金の合計額	¥ 45,928		
市	松戸市負担金	¥ 82,692		
合計額		¥ 128,620		

【事業費の支出額】

	科目	金額	支出内訳	説明事項（用途など）
負担金の 交付対象 経費	使用料	¥ 0	—	会場使用料は、市の施設が利用できたため支出なし
	賃借料	¥ 0	—	音響機器賃借料は、市の施設が利用できたため支出なし
	印刷製本費	¥ 89,380	第1回講演会資料 60,287円	資料120部（2,760枚）
			第2回講演会資料 29,093円	資料90部（1,350枚）＋相談申込書（50枚）
	印刷製本費	¥ 2,500	—	講演会案内状100部コピー代
	報償費	¥ 0	—	全てNPO内部要員で対応したため支出なし
	通信費	¥ 0	—	市の広報により、当初計画したDMによる勧誘を実施しなかったため支出なし
対象経費の合計	¥ 91,880			
その他 経費	交通費	¥ 36,740		
	その他経費の合計	¥ 36,740		
合計額		¥ 128,620		

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×500円
	◆第1回セミナーに関する活動		
	①NPO内部セミナー打合せ(3回)	27,000 円	6 人 × 3 h × 3 回 × 500 円
	②担当課との打合せ	6,000 円	2 人 × 2 h × 3 回 × 500 円
	③セミナー配布資料準備	20,000 円	4 人 × 5 h × 2 回 × 500 円
	④セミナー活動	15,000 円	5 人 × 6 h × 1 回 × 500 円
	⑤担当課とのセミナーレビュー	4,000 円	2 人 × 2 h × 2 回 × 500 円
	◆第2回セミナーに関する活動		
	①NPO内部セミナー打合せ(7回)	52,500 円	5 人 × 3 h × 7 回 × 500 円
	②担当課との打合せ	4,000 円	2 人 × 2 h × 2 回 × 500 円
	③セミナー配布資料準備	20,000 円	4 人 × 5 h × 2 回 × 500 円
	④セミナー活動	21,000 円	7 人 × 6 h × 1 回 × 500 円
	⑤担当課とのセミナーレビュー	4,000 円	2 人 × 2 h × 2 回 × 500 円
	⑥協働事業のまとめ(3回)	18,000 円	4 人 × 3 h × 3 回 × 500 円
	⑦個別相談者へのフォロー(3回)	12,000 円	2 人 × 4 h × 3 回 × 500 円
合 計 (A)	203,500 円		

活動状況報告書

- 1 事業名称 地域連携自主防災事業
- 2 実施主体
 ■ 団体名： 栗ヶ沢中学校地域防災委員会
 ■ 事業担当課： 危機管理課
- 3 事業を実施する上での役割分担
 ■ 団体の役割
 自主防災に関する告知活動、避難所開設運営訓練の実施、地域連携による救護活動計画の策定(担当課と等しく寄与)
 ■ 担当課の役割
 松戸市内の自主防災組織との交流、地域連携による救護活動計画の策定(団体と等しく寄与)

4 事業の内容

I 自主防災に関する講演会の実施(二回)

日付	作業内容
10月1日	講演会打ち合わせ
11月1日～10日	チラシの印刷及び配布
12月17日	講演会第一回 栗中食堂二階 講師秋山訓子氏 「地域にとって防災とは何か - 市民活動の現場から -」 参加者80人
12月17日	次回講演会打ち合わせ
1月5日～15日	チラシの印刷及び配布
1月28日	講演会第二回 栗中食堂二階 講師村井晶子氏 「問われる災害福祉への視点」 参加者80人

II 避難所開設運営訓練

日付	作業内容
7月2日	訓練概要打ち合わせ
7月30日	二つの訓練小委員会(栗小、貝小)打ち合わせ
9月10日	二つの訓練小委員会(栗小、貝小)打ち合わせ
10月5日～15日	チラシの印刷及び配布
10月15日	二つの訓練小委員会(栗小、貝小)打ち合わせ
11月5日	二つの訓練小委員会(栗小、貝小)最終打ち合わせ
11月11日	訓練前日準備
11月12日	訓練 「第四回收容避難所体験訓練 避難所Go!」 栗小体育館および貝小体育館 参加者合計250名

III 地域連携による救護活動計画の策定

日 付	作 業 内 容
4月22日	要配慮者支援会議第一回 6-7会館 参加者20名
7月14日	打ち合わせ(危機管理課)
7月21日	打ち合わせ(危機管理課)
7月29日	要配慮者支援会議第二回 6-7会館 参加者20名
2月24日	打ち合わせ(危機管理課)
3月13日	打ち合わせ(危機管理課)
3月24日	要配慮者支援会議第三回

IV 自主防災組織との交流会

日 付	作 業 内 容
10月1日	打ち合わせ(危機管理課)
10月28日	松戸市自主防災組織交流会 参加者30名
1月28日	打ち合わせ(栗中)
2月14日	松戸市自主防災組織交流会第二回
3月15日	自主防災小冊子テスト印刷(10部)
3月24日	自主防災小冊子印刷「自主防災組織交流会報告書」(1500部)

V 栗防通信の発行

日 付	作 業 内 容
2月18日	内容打ち合わせ
3月4日	内容最終確認(栗防委員会第28回)
3月15日	栗防通信07印刷
3月27日	栗中地域全世帯に配布開始(6500部)

5 事業成果について

(1) 事業目的の達成について

※計画時に設定した成果目標が、どの程度達成されたのかを記載してください。

- ① 栗中地域の各松戸市指定収容避難所にて防災訓練を行い、各参加者を100人以上集める。

→ 今年度訓練では新たに町会レベルでの一時(いっとき)避難所安否確認行動を訓練の一部とした。その成否は町会によって異なるが、新たな視点を取り込み、有意義な訓練となった。訓練は二箇所(栗小と貝小)で行われたが、それぞれ地域住民100人以上の参加があり、合計約250人の参加があり目的は達せられた。

- ② 要配慮者に対する地域による支援および救護の仕組みを松戸市関係課および地域の専門家(医師、看護師、等)の協力のもと、具体化し、冊子にまとめる。

→ 第三回の会議にて「小金原要配慮者支援マニュアルの骨子」と概要版を示し、関係者による承認を得た。来年度からは四つの分科会を構成し、より具体的な議論を進められるようになった。

- ③ 市内自主防災組織との交流の結果を冊子にまとめ、自主防災組織を組織し運営しようしている地域への一助とする。冊子は市内町会・自治会等への配布を目指し、1000部程度を作成する。

→ 二回の交流会では、各組織の生い立ちおよび現在の活動状況を共有でき、各組織の今後の活動に役立つ情報交換ができた。また、同じ問題を抱えている組織も多く、問題解決のため共同で取り組んでいけることが望ましいと感じた。また、この二回の交流会のまとめを小冊子としてまとめ、1500部作成した。

(2) 取り組んだ課題の現状について

※解決できたこと、解決できなかったことを記載してください。

我々の活動が大災害時に本当に役に立つかどうかは実際に災害に遭遇しない限り判断できないが、今後もこれらの活動を継続していくことが重要と考える。これらの活動を通して、地域の連携が密になってきていることは実感している。災害に備えるためには地域力を高める必要があり、その意味で我々の活動は有意義であると考えている。

6 今後の事業展開

※解決できなかった課題にどう対応し、この事業を今後どのように展開していきたいのかを記載してください。

我々の活動全般において、訓練や告知を通じて、いざという時に活動できるよう、より現実的に、より緻密に事業を展開していく予定。

収支決算書

【労力換算(限度額算入)】

(単位:円)

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 668,000	¥ 860,000	¥ ▲192,000	※別紙 労力換算計算書 参照

【取入】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	栗防抛出金	¥ 150,000	¥ 200,030	¥ ▲50,030	町会会費および自己資金
	自己資金の合計額 (B)	¥ 150,000	¥ 200,030	¥ ▲50,030	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 500,000	¥ 500,000	¥ 0	←精算額
合計額 (D) = (B+C)		¥ 650,000	¥ 700,030	¥ ▲50,030	

【支出】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 20,000	¥ 30,000	¥ ▲10,000	外部講師謝礼 30,000円×1回 0円×1回
	印刷製本費	¥ 300,000	¥ 186,217	¥ 113,783	防災訓練パンフ、栗防通信07、冊子や委員会案内等印刷 テキ17,550部、通信07号8,000部、冊子1510部、委員会案内・議案2500部
	消耗品費	¥ 220,000	¥ 356,017	¥ ▲136,017	栗小・貝小収容避難訓練時の消耗品代やワッシャー代等 P-7、ホリ袋、テープ類、他
	使用料	¥ 10,000	¥ 2,750	¥ 7,250	会場使用料 500円×(2時間×2回+1.5時間×1回)
	通信費	¥ 10,000	¥ 0	¥ 10,000	
	食糧費	¥ 0	¥ 2,004	¥ ▲2,004	講演会のお茶、菓子代
	対象経費の合計(E)	¥ 560,000	¥ 576,988	¥ ▲16,988	
	(対象外) 其他経費	会議費等	¥ 70,000	¥ 8,206	¥ 61,794
交通費		¥ 20,000	¥ 8,000	¥ 12,000	会員の交通費 760円×10人、他
備品費		¥ 0	¥ 106,836	¥ ▲106,836	デジタル簡易無線機、他
其他経費の合計額(F)		¥ 90,000	¥ 123,042	¥ ▲33,042	
合計額(G) = (E+F)		¥ 650,000	¥ 700,030	¥ ▲50,030	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 額の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 0
-----	-----

団体名 栗ヶ沢中学校地域防災委員会

代表者氏名 委員長 小林 俊夫

収支内訳書

【事業費の収入額】

区分	科目	金額	内訳	摘要
団体	栗防拠出金	¥ 200,030		町会会費および自己資金
	自己資金の合計額	¥ 200,030		
市	松戸市負担金	¥ 500,000		
合計額		¥ 700,030		

【事業費の支出額】

	科目	金額	支出内訳	説明事項（用途など）
負担金の 交付対象経費	報償費	¥ 30,000	30,000円*1回 0円*1回	講師謝礼 講師名 秋山氏 30,000円*1回 講師名 村井氏 0円*1回
	印刷製本費	¥ 186,217		印刷代 講演会や避難訓練ﾌｼﾞ17750部配布 栗防通信07号8,000部配布、冊子 1510部配布
	消耗品費	¥ 356,017		栗小・貝小収容避難訓練時の消耗品および訓練後の補充
	使用料	¥ 2,750	1,000円*2回 750円*1回	会場使用料 6-7住宅組合会議室
	通信費	¥ 0		
	食糧費	¥ 2,004		講演会のお茶、菓子代
	対象経費の合計	¥ 576,988		
その他経費	会議費	¥ 8,206		会議時の茶菓、使用料等
	交通費	¥ 8,000	760円*2人*5回他	交通費 バス乗車運賃(行政センター前バス停～北小金駅バス停) 760円*2人*5回、駐車代400円
	備品費	¥ 106,836		デジタル簡易無線機、備品収納BOXなど
	その他経費の合計	¥ 123,042		
合計額		¥ 700,030		

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×500円
	栗防委員会(5回)	300,000 円	60 人 × 2 h × 5 回 × 500 円
	推進事務局打合せ(20回)	160,000 円	8 人 × 2 h × 20 回 × 500 円
	防災訓練小委員会(5回、二箇所)	200,000 円	20 人 × 2 h × 10 回 × 500 円
	防災訓練(二箇所)	200,000 円	50 人 × 4 h × 2 回 × 500 円
	合 計 (A)	860,000 円	

活動状況報告書

1 事業名称 講演会を軸とした協働啓発事業

2 実施主体

- 団体名： 特定非営利活動法人まつどNPO協議会
- 事業担当課： 市民自治課

3 事業を実施する上での役割分担

■ 団体の役割

講演会 企画運営業務全般（講師・パネリスト調整）

ポスターセッション企画・団体調整等運営

講演会 拡大企画会議開催

市民参加者の把握

市民アンケート集計

協働のまちづくり／市民活動インタビュー記事制作

同インタビュー記事のWebコンテンツ制作・公開

※成果物であるインタビュー記事は共同所有を明らかにして頒布を進める。

広報等媒体原稿制作

事業報告書作成

■ 担当課の役割

【職員研修関連】

開催日時等の庁内調整

協働推進員を中心とした市職員参加呼びかけ

市職員参加者の把握

市職員アンケート集計

【市民に向けた行政サービス】

会場の検討・確保（公用等手配）

町会への講演会開催情報の発信

市内公共施設を通じた講演会開催情報の発信

市広報誌「広報まつど」への掲載

松戸市ホームページ・Twitter・facebook等、市の持つ広報媒体からの誘導

【負担金関連】

講演会時間中の手話通訳2名及び要約筆記3名につき、聴覚障害者への情報補償について、関係各課・団体と調整

4 事業の内容

I 「協働のまちづくり講演会」の開催

日 付	作 業 内 容
4月6日	まつどNPO協議会(以下、MNC)担当者会議
5月11日	MNC理事会にて検討
5月30日	市民自治課・MNC打ち合わせ
6月1日	MNC担当者会議
6月9日	日本ファンドレイジング協会講師調整
6月14日	聖徳大学事務方事前協議
6月23日	広報まつど掲載依頼(出展団体募集)
7月6日	MNC担当者会議
7月7日	聖徳大学生涯学習研究所 所長顔合わせ
7月16日	前年度インタビュー記事WEB掲載向け作業
7月23日	MNC会員交流会にて協働事業企画検討
8月3日	MNC担当者会議・インタビュー先候補整理
8月10日	MNC理事会にて検討
8月30日	市民活動団体を交えた拡大企画会議
8月31日	MNC担当者会議
9月8日	市民自治課・MNC打ち合わせ(中間ふりかえり会議)
9月20日	広報まつど掲載依頼(11月1日号)
10月12日	市民自治課・MNC打ち合わせ
10月19日	ポスターラフ案検討
10月26日	MNC理事会にて検討
10月27日	市民自治課・MNC打ち合わせ
10月31日	ゲスト打ち合わせ(新松戸・五番街ふれあいセンター)
11月7日	市民自治課・MNC打ち合わせ
11月8日	チラシ案作成・修正取り次ぎ
11月10日	ゲスト打ち合わせ(柏市・沖本様)
11月16日	市民自治課・MNC打ち合わせ
11月28日	協働のまちづくり講演会 当日(詳細別記)
12月15日	アンケートの集計
1月10日	要約筆記振込等対応
2月17日	協働事業ふりかえり会議
3月20日	要約筆記消耗品確認
3月22日	要約筆記等消耗品購入

【11/28 協働のまちづくり講演会 詳細報告】

主催：松戸市・特定非営利活動法人まつどNPO協議会

共催：聖徳大学生涯学習研究所

日時：平成 28 年 11 月 28 日（月） 13:15～16:40

会場：聖徳大学 10 号館 14 階ホール

ゲスト：

基調講演＝鴨崎 貴泰 氏（NPO 法人日本ファンドレイジング協会 事務局長）

事例紹介＝

沖本 由季 氏（柏市 保健福祉部医療公社管理課長）

有川 かおり 氏（聖徳大学生涯学習研究所 助手）

新井 節子 氏（五番街ふれあいセンター）

出展団体（9 団体）：

認定特定非営利活動法人外国人の子どものための勉強会、認定特定非営利活動法人たすけあいの会ふれあいネットまつど、特定非営利活動法人人材パワーアップセンター、NPO 法人 MamaCan、特定非営利活動法人子どもとまつど、自立サークル FC、ボランティア花水木の会、NPO 法人松戸子育てさぼーとハーモニー、特定非営利活動法人まつど NPO 協議会

参加者数：88 名（市民 63 名、市職員 25 名）

（資料）講演会チラシ

2025 年の
松戸の未来を切り拓く

—— 社会的インパクトとは何か

11/28
協働のまちづくり
講演会
平成28年度松戸市協働事業

基調講演「2025年・松戸はどうなる？
社会的インパクト視点で未来に備える」
講師 鴨崎 貴泰 氏
NPO 法人日本ファンドレイジング協会 事務局長、
「社会的インパクトとは何か」著者、監訳者

地域での協働事例で松戸の地域資源に気づき、行政・市民・大学・企業がまちに「成果」を生み出す方策を考えます
（写真提供）基調講演、パネリストが活躍する、講演会の様子、夜の松戸駅周辺

2016

2016年11月28日(月)
開始 13:15（開場 12:45）
聖徳大学10号館14階ホール
（松戸駅西口より徒歩1分）

参加費無料・要事前申込
（申込期間 11/1～21、定員 40 名）
左記市民自治課までご連絡ください

申込先
電話 047-366-7062
FAX 047-704-4009
メール kosen1611@matsumido-npo.org

主催：松戸市・NPO法人まつどNPO協議会、共催：聖徳大学生涯学習研究所 ちば県民活動PR月間賛同行事
※聴覚障害のある方も安心してご参加できるよう、要約筆記・手話通訳を行います。ご利用の方は申込時にお伝え下さい。

基調講演
鴨崎 貴泰
1978 年生まれ。千葉大学園芸学部緑地環境学科卒業。グローバル経営大学院卒業 (MBA)。環境
コンサルティング会社を経て、2009 年公益財団法人情報資本財団に設立より参画し、社会起業
家に対する無料・無償相談事業や NPO のファンドレイジング支援事業を行う。2013 年に信
頼資本財団を退職後、2014 年 NPO 法人日本ファンドレイジング協会へ転職し、現在に至る。
SROI 評価や SIB(Social Impact Bond) の日本導入などに携わる。

パネリスト
沖本 由季
1990 年 4 月柏市投函入庁。2006 年 4 月から 1 年間、NPO 法人日本 NPO センターに研修生として派遣。
翌 07 年 4 月から 5 年間、市民活動推進課(現協働推進課)で市民活動支援業務と町会活動支援業務に従事。
異動後は、自殺対策推進業務、民生委員児童委員関係業務を継続し、現在、保健福祉部医療公社管理課長。

パネリスト
有川 かおり
立教大学 21 世紀社会デザイン研究科博士前期課程修了（社会デザイン修士）。現在、聖徳大学生涯
学習研究所で「ジュニア夢カレッジ～プロから学ぶお仕事体験～」 「アートパーク」等の、学生参画に
よる京学官民連携イベントの企画・立案に関与。人は「どんなタイミングで成長するのか」「成長に必
要な条件整備」に関心がある。

パネリスト
新井 節子
五番街に住んで 25 年の主婦。子育て中には「ひやき文庫」「きぼう子供会」、その後、親の介護を経験して、
現在サンライストバスラト五番街でボランティア活動をしている。「ふれあいセンター」の生活支援担
当として、カレーを食べる会を開催。松戸市健康推進委員認知症予防教室ワンリーダー等を経験。

ポスター
セッション
出展
認定 NPO 法人外国人の子どものための勉強会、NPO 法人子どもとまつど、NPO 法人人材パワーアップ
センター、認定 NPO 法人たすけあいの会ふれあいネットまつど、NPO 法人松戸子育てさぼーとハーモニー、
NPO 法人まつど NPO 協議会、NPO 法人 MamaCan、コミュニティ五番街、自立サークル FC、聖徳大学
生涯学習研究所

タイムテーブル
13:15 開会・あいさつ
13:30 講演「2025年・
松戸はどうなる？
社会的インパクト視
点で未来に備える」
(講師：鴨崎氏)
14:45 一休題
15:00 ポスターセッション
出展団体から 3 団体選び、詳しく活動を
聞くことができます。
15:30 パネルディスカッション
沖本氏・有川氏・新井氏の 3 名から事例発
表をいただき、参加者間で意見交換・深く
聞きたいことをまとめて、コーディネー
ターによるクロストークで深めます。
16:40 閉会

会場へのアクセス
松戸駅西口より
徒歩 1 分
聖徳大学
10 号館
東口
松戸駅

申込方法（申込期間 11/1～21）
参加には事前申込が必要です。
電話・FAX・メールのみ受付で、下記市民自治課まで、
お名前を添えてお申込みください。
電話 047-366-7062
FAX 047-704-4009
メール kosen1611@matsumido-npo.org
※聴覚障害のある方も安心してご参加できるよう、要約
筆記・手話通訳を行います。ご利用の方は申込時にお伝
え下さい。

(写真) 11/28 講演会の様子



基調講演：JFRA 鴨崎氏
「2025年・松戸はどうか？
社会的インパクト視点で未来に備える」



ポスターセッション
(子どもとまつど・松戸子育て
さぽーとハーモニーのコーナー)



パネルディスカッション (事例発表)



パネルディスカッション (クロストーク)



ラウンドテーブル (参加者間の質疑や意見の共有)



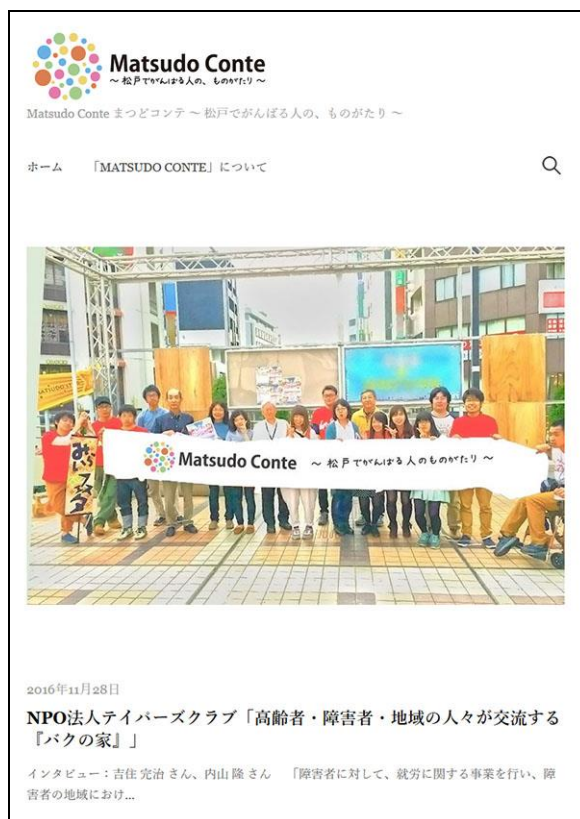
II 「協働のまちづくり／市民活動インタビュー」Web サイト制作

日 付	作 業 内 容
8月31日	MNC 担当者会議にてインタビュー先検討
10月12日	市民自治課・MNC 打ち合わせ
10月21日	団体インタビュー（NPO 法人Jワールド）
10月30・31日	「まつどコンテ」Web サイト制作・公開（H27 年度冊子分掲載）
10月31日	団体インタビュー（五番街ふれあいセンター）
11月9日	団体インタビュー（NPO 法人テイパーズクラブ）
11月12日	団体インタビュー（NPO 法人子どもっとまつど）
11月15日	団体インタビュー（緑のネットワーク）
11月25日	市民活動インタビュー冊子完成
11月27日	「まつどコンテ」インタビュー記事の追加掲載

（資料）インタビュー冊子と Web サイト



市民活動インタビュー冊子（A5 版）



まつどコンテ

<http://matsudo-npo.org/conte/>

5 事業成果について

(1) 事業目的の達成について

①「協働のまちづくり講演会」の開催

■ 市民参加者のうち、講演会現在でNPO・市民活動に関わりを持っている市民が2割以上となり、協働の生まれる可能性を高める。

→ 達成。他方、アンケートより広報まつど・チラシやポスターを見て参加した人を合わせると半数以上が、日常的に協働の概念に触れていない層を巻き込むことに成功した。

■ 市民参加者の年代・性別・職業等、幅広い参加を目指し、アンケートで属性別集計により評価する。

→ 達成。前記のように町会・自治会掲示板への掲示から60代・70代の参加が増えたと推察され、全体の2/3を締めた。とはいえ、ポスターセッション出展団体のスタッフから声かけ参加した層が20代～40代に渡り、現役世代にも幅広く参加してもらうことができた。

講演内容については、アンケートや当日の感想として高齢の方を中心に理解が難しかったという声があり、高齢社会問題への直接の取り組みへの期待と、当日の基調講演・事例発表のような協働による社会システムの変革の必要性へのつながりについて、講演会とは違った形でアプローチも必要と考えられる。

■ 行政・市民の相互理解の進展を、市民/市職員アンケート・ワークショップ成果等を通じて、事後評価する。

→ 達成。職員アンケートより、ポスターセッションやパネルディスカッションに対して「理解できた」「満足した」が6～7割に達し、初めて参加した職員が5割だったことを考えると、相互理解に寄与する講演会とすることができた。市民アンケートからも、協働事業提案制度や市民活動助成制度について「役に立つ」と考える回答が7割を超え、パネルディスカッションの柏市の協働事例や、五番街ふれあいセンターの取り組みなど助成事例が、制度・行政への理解を進めたと言える。

②「協働のまちづくり/市民活動インタビュー」Webサイト制作

■ 市民活動団体の訪問インタビューを5件以上実施し、多様な活動の情報を提供する。

→ 達成。本事業にて昨年に加え5件のインタビューを実施、高齢者福祉・障害者福祉・環境・子育て支援・子どもの健全育成といった分野も多岐にわたる情報を提供できた。

■ FacebookやTwitter、市ホームページを通じて市民活動や協働のストーリーをホームページを介して広める。

→ 達成。「まつどコンテ」と称したインタビュー記事サイトをホームページとして掲載し、FacebookやTwitterで共有しやすい状態とした。

■ 協働事業終了後も、本協議会ホームページにて公開し、広く情報発信に努

める。

→ 達成。28 年度末段階ではまだ 500PV に満たない状況だが継続運営を進め、今後多様な媒体で広めていきたい。

(2) 取り組んだ課題の現状について

※解決できたこと、解決できなかったことを記載してください。

29 年度実施の行政指定部門に 3 つの課からの提案があがり、協働事業に対する社会的要請に対する一定の進展が見られたことは、昨年度事業の成果と言える。

他方、審査の過程で 3 提案中 1 提案が選外となっている。市民と行政との信頼関係を進めている中の結果として鑑みると、行政と市民の事業づくりへの支援等が必要だと考えられる。

今年度（28 年度）本事業において「市民・行政双方の意識啓発」と「協働事業提案数の向上」を目標としたが、意識啓発についてはアンケート結果より達成したと考えられる。他方、協働事業提案数の向上については推移を見ていく必要がある。

会場等調整を優先したことで月曜日の開催となり、職員の参加については伸び悩みにつながってしまった。

6 今後の事業展開

※解決できなかった課題にどう対応し、この事業を今後どのように展開していきたいのかを記載してください。

29 年度協働事業として、本事業の「市民への意識啓発」については「協働のまちづくり啓発事業」として二次選考を通過しており、協働事業提案数の向上につなげるべく、引き続き次年度実施していく。

他方、一次選考の協議会付帯意見及びテーマ担当課の市民自治課意見を受けて、講演会を市民と職員両者が参加する場ではなく市民向けのみとしたため、行政への意識啓発については、別途考慮していく必要がある。提案団体であるまつど NPO 協議会としても、引き続き職員への啓発・研修機会に積極的に提案・担当をしていきたい。

収支決算書

【労力換算（限度額算入）】

(単位:円)

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 217,000	¥ 271,000	¥ ▲54,000	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 27,900	¥ 24,299	¥ 3,601	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (B)	¥ 27,900	¥ 24,299	¥ 3,601	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 224,100	¥ 216,883	¥ 7,217	←精算額
	合計額 (D) = (B+C)	¥ 252,000	¥ 241,182	¥ 10,818	

【支 出】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 85,000	¥ 85,000	¥ 0	講演会講師謝礼 80,000円×1 パネリスト謝礼 5,000円×1
	報償費 (バリアフリー対応)	¥ 32,000	¥ 33,589	¥ ▲1,589	要約筆記、手話 (¥1,410円) 派遣報償費 ※松戸市基準
	消耗品費	¥ 10,000	¥ 7,738	¥ 2,262	文具 (講演会利用+情報保障)
	食糧費	¥ 11,000	¥ 3,257	¥ 7,743	登壇者水代、ワークショップ 茶 菓子等
	印刷製本費	¥ 100,000	¥ 95,210	¥ 4,790	ポスター(4C) 3000枚 11,840円、チラシ(4C) 1500枚 12,390円 A5冊子 (16P・表紙4C) 500冊 70,550円、ほかコピー代
	委託料	¥ 10,000	¥ 15,000	¥ ▲5,000	印刷物デザイン委託 2種→3種 (チラシ分追加)
	通信運搬費	¥ 1,000	¥ 1,188	¥ ▲188	振込手数料等
		対象経費の合計 (E)	¥ 249,000	¥ 240,982	¥ 8,018
(その他経費)	旅費交通費	¥ 3,000	¥ 200	¥ 2,800	
	その他経費の合計額 (F)	¥ 3,000	¥ 200	¥ 2,800	
	合計額 (G) = (E+F)	¥ 252,000	¥ 241,182	¥ 10,818	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 7,217
-----	---------

団体名 特定非営利活動法人まつどNPO協議会

代表者氏名 理事長 岩橋 秀高



収支内訳書

【事業費の収入額】

区分	科目	金額	内 訳	摘 要
団体	団体拠出金	¥ 24,299		事業費の一部を拠出
	自己資金の合計額	¥ 24,299		
市	松戸市負担金	¥216,883		
合 計 額		¥241,182		

【事業費の支出額】

	科目	金額	支出内訳	説明事項（用途など）
負担金の 交付対象経費	報償費	¥ 85,000	80,000円（講演） 5,000円（事例）	講師謝礼 鴨崎氏（JFRA） 80,000円×1 新井氏（五番街） 5,000円×1
	報償費（バリアフリー対応）	¥ 33,589	手話通訳 12,454円 要約筆記 21,135円	派遣報償費 手話通訳 12,454円（2名） 要約筆記 21,135円（3名）
	消耗品費	¥ 7,738	文具利用 6,193円 現物渡し 1,545円	文具利用＝講演会で使ったサインペン・紙等 現物渡し＝情報保障ボランティアへの現物渡し
	食糧費	¥ 3,257	WS茶菓子 2,514 講師等水代 743	
	印刷製本費	¥ 95,210	ポスター 11,840 チラシ 12,390 冊子 70,550 コピー等 430	A3ポスター（4C）3000枚 A4チラシ（4C）1500枚 A5冊子（16P・表紙4C）500部
	委託料	¥ 15,000	印刷物3種デザイン	
	通信運搬費	¥ 1,188	講師1件 情報保障5件	
	対象経費の合計	¥240,982		
その他経費	旅費交通費	¥ 200		講師事前打ち合わせはメールにて実施 パネリスト打ち合わせ駐車場代等
	その他経費の合計	¥ 200		
合 計 額		¥241,182		

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×500円
	担当課打ち合わせ (5回)	10,000 円	2 人× 2 h× 5 回× 500 円
	企画担当者会議 (5回)	20,000 円	4 人× 2 h× 5 回× 500 円
	理事会内企画確認 (3回)	15,000 円	10 人× 1 h× 3 回× 500 円
	会員交流会企画会議	7,500 円	15 人× 1 h× 1 回× 500 円
	講師調整等	1,000 円	1 人× 2 h× 1 回× 500 円
	パネリスト打ち合わせ	6,000 円	3 人× 2 h× 2 回× 500 円
	聖徳大学事務協議	6,000 円	3 人× 2 h× 2 回× 500 円
	直前打ち合わせ	4,500 円	3 人× 3 h× 1 回× 500 円
	講演会当日事務局	13,500 円	3 人× 9 h× 1 回× 500 円
	講演会ポスター出展者	71,500 円	22 人× 6.5 h× 1 回× 500 円
	振り返り (担当課) 打ち合わせ	2,000 円	2 人× 2 h× 1 回× 500 円
	報告書制作	24,000 円	3 人× 16 h× 1 回× 500 円
	団体ヒアリング・原稿起こし	20,000 円	5 人× 8 h× 1 回× 500 円
	市民活動団体 インタビュー対応	7,500 円	5 人× 3 h× 1 回× 500 円
	拡大企画会議 (1回)	10,500 円	7 人× 3 h× 1 回× 500 円
	広報活動	9,000 円	9 人× 2 h× 1 回× 500 円
	冊子原稿制作・調整	32,000 円	2 人× 32 h× 1 回× 500 円
	Web掲載作業	8,000 円	1 人× 8 h× 2 回× 500 円
振込・購入等、上記外事務	3,000 円	1 人× 2 h× 3 回× 500 円	
合 計 (A)	271,000 円		